

性的少数者(LGBTQ)が自分らしく生きられる空気を促す取り組みは当事者以外からも活発化している。これまで男女の夫婦らが前提だった社内の福利厚生を見直し、婚活をはじめとする支援を当事者にも広げるなど、京都市内の事業所にも多様性社会に向けた風が吹き始めている。

8月、LGBTQについて発信するゲイのユーチューバー「かずえちゃん」は、京都市東山区の化学メーカー三洋化成工業に非常勤嘱託として入社した。配属はダイバーシティ推進部。社内研修などの助言、社員との交流会などを通し、性的少数者が働きやすい職場作りをサポートする。

同社の安藤孝夫社長とは昨秋九州で開かれたレインボープライドで出会った。安藤社長は昔LGBTQを特別な人だと思い込んでいた。だからこそ、身近な生活の中に性的少数者がいることを社員に知ってほしいと入社を説いたという。

同社は2014年から女性活躍推進など多様性を重視した経営を始めた。18年に安藤社長は性的少数者が7・6%（15年調査）いると知り、当事者が自分らしく働ける環境の整備を決めた。性別を問わず使える「だれでもトイレ」を設置。社内規定を見直し自己申告で同性パートナーを配偶者として認め、男女の夫婦と同様の手当や福利厚生を受けられるようにした。性的少数者への取り組みを評価する国内の指標も2年連続で最高評価を得た。

かずえちゃんは多くの性的少数者と出会い自分だけじゃないと勇気をもらつたことをきっかけにユーチューバーになつた。「子どもの時に教えてほしかったことを伝えたい」と、当事者が人生の楽しさや生きにくさを聞き動画で配信してきた。

入社を決めたのは、かつてカミングアウトせず働いていた職場での経験が大きかった。「男は結婚して一人前」といつた言葉や男女の恋愛を当たり前にする話が怖くて、セクシユアリティを隠さないといけないと感じ氣力を消耗した。そんな昔の自分や当事者の声を届けたいと思った。

今後社内イベントなどを通して理解を広げ、アライ（支援者）を増やしていく。「こんな会社があるんだよって希望を届けたい。LGBTQも働きやすい環境作りが広がるきっかけになければならない」と期待する。

かずえちゃんには夢がある。かつて留学したカナダで見た光景。同性カップルが「普通に」町で手をつないでいる。 「いざれLGBTQという言葉が多い京都に縁ができるから」「若い人もつながつてイベントをしたい。今すぐ、わくわくしています」と語る。

同社は2014年から女性活躍推進など多様性を重視した経営を始めた。18年に安藤社長は性的少数者が7・6%（15年調査）いると知り、当事者が自分らしく働ける環境の整備を決めた。性別を問わず使える「だれでもトイレ」を設置。社内規定を見直し自己申告で同性パートナーを配偶者として認め、男女の夫婦と同様の手当や福利厚生を受けられるようにした。性的少数者への取り組みを評価する国内の指標も2年連続で最高評価を得た。

かずえちゃんは多くの性的少数者と出会い自分だけじゃないと勇気をもらつたことをきっかけにユーチューバーになつた。「子どもの時に教えてほしかったことを伝えたい」と、当事者が人生の楽しさや生きにくさを聞き動画で配信してきた。

入社を決めたのは、かつてカミングアウトせず働いていた職場での経験が大きかった。「男は結婚して一人前」といつた言葉や男女の恋愛を当たり前にする話が怖くて、セクシユアリティを隠さないといけないと感じ氣力を消耗した。そんな昔の自分や当事者の声を届けたいと思った。

今後社内イベントなどを通して理解を広げ、アライ（支援者）を増やしていく。「こんな会社があるんだよって希望を届けたい。LGBTQも働きやすい環境作りが広がるきっかけになければならない」と期待する。

かずえちゃんには夢がある。かつて留学したカナダで見た光景。同性カップルが「普通に」町で手をつないでいる。 「いざれLGBTQという言葉が多い京都に縁ができるから」「若い人もつながつてイベントをしたい。今すぐ、わくわくしています」と語る。

性的少数者(LGBTQ)が自分らしく生きられる空気を促す取り組みは当事者以外からも活発化している。これまで男女の夫婦らが前提だった社内の福利厚生を見直し、婚活をはじめとする支援を当事者にも広げるなど、京都市内の事業所にも多様性社会に向けた風が吹き始めている。

8月、LGBTQについて発信するゲイのユーチューバー「かずえちゃん」は、京都市東山区の化学メーカー三洋化成工業に非常勤嘱託として入社した。配属はダイバーシティ推進部。社内研修などの助言、社員との交流会などを通し、性的少数者が働きやすい職場作りをサポートする。

同社の安藤孝夫社長とは昨秋九州で開かれたレインボープライドで出会った。安藤社長は昔LGBTQを特別な人だと思い込んでいた。だからこそ、身近な生活の中に性的少数者がいることを社員に知ってほしいと入社を説いたという。

同社は2014年から女性活躍推進など多様性を重視した経営を始めた。18年に安藤社長は性的少数者が7・6%（15年調査）いると知り、当事者が自分らしく働ける環境の整備を決めた。性別を問わず使える「だれでもトイレ」を設置。社内規定を見直し自己申告で同性パートナーを配偶者として認め、男女の夫婦と同様の手当や福利厚生を受けられるようにした。性的少数者への取り組みを評価する国内の指標も2年連続で最高評価を得た。

かずえちゃんは多くの性的少数者と出会い自分だけじゃないと勇気をもらつたことをきっかけにユーチューバーになつた。「子どもの時に教えてほしかったことを伝えたい」と、当事者が人生の楽しさや生きにくさを聞き動画で配信してきた。

入社を決めたのは、かつてカミングアウトせず働いていた職場での経験が大きかった。「男は結婚して一人前」といつた言葉や男女の恋愛を当たり前にする話が怖くて、セクシユアリティを隠さないといけないと感じ氣力を消耗した。そんな昔の自分や当事者の声を届けたいと思った。

今後社内イベントなどを通して理解を広げ、アライ（支援者）を増やしていく。「こんな会社があるんだよって希望を届けたい。LGBTQも働きやすい環境作りが広がるきっかけになければならない」と期待する。

かずえちゃんには夢がある。かつて留学したカナダで見た光景。同性カップルが「普通に」町で手をつないでいる。 「いざれLGBTQという言葉が多い京都に縁ができるから」「若い人もつながつてイベントをしたい。今すぐ、わくわくしています」と語る。



一般社団法人日本LGBTサポート協会を立ち上げた松村寿代さん(京都市下京区・ブライダルサロンHISAYO)

一般社団法人日本LGBTサポート協会
huka0707@rd6.so-net.ne.jp

「ブライダルサロンHISAYO」を當む松村寿代さん(49)は、同市が「パートナーシップ審査制度」を導入した9月1日、性的少数者のパートナー探しを支援する「一般社団法人日本LGBTサポート協会」を立ち上げた。来年にはウェブサイトを開設。全国の仲人と手を組み、男女の夫婦と同様のサービスを提供していく予定だ。

仲人を通じ会員登録した利用者は面談の上、趣味や職業、家族構成やセクシュアリティなどのプロファイルを作成。学歴や自身を証明する書類も提出する。仲人が相手を引き合わせ、双方が望めば連絡先の交換などへ進む流れだ。真剣な思いに向き合えるよう、仲人は専門家による研修を行う。

「恋愛対象に関わらず、生涯の家族が欲しい人の思いに応えたい」。松村さんが協会設立を考えたのは、苦い経験があるからだ。婚活サロンを創業する前、夫の営む焼き鳥屋で女将をしていた。常連客に頼まれ、相性の良さそうな人を集めて

隠さなくていい、環境作りを

企業も意識改革始動

懇親会を開くと、多くのカップルが生まれた。喜んでもらえるのがうれしくて婚活業界に足を踏み入れた。ある時、レズビアンの人から「同性パートナーを探したい」と相談を受けた。喜びしてカミングアウトしてくれたのに、前例のない要望を「門前払い」してしまった。悔いが残った。焼き鳥屋の常連には、ゲイカップルもいる。男女の夫婦と変わらない幸せな様子を思い返し「望む人全員に、寄り添つて生きるパートナーを見つけよう」と思い直した。

同性を対象にした婚活サービスはわずかしかない。「需要がない」との声も多かった。当事者らが使う出会い系アプリには個人情報の流出など不安も多くはない。だが「絶対に必要としている人がある」と、日本ブライダル連盟(東京都)などが賛同し協会の設立にこぎ着けた。

まずはレズビアンとゲイを活動の中心に据える予定。登録は当面の間、無料とする。松村さんは「最終的には全てのセクシユアリティの人々に、理想的的人生のお手伝いをしたい」と意気込む。

性的少数者の働きやすい環境作りに取り組むかずえちゃん(右)と安藤孝夫社長=京都市東山区、三洋化成工業

